

東日本大震災から15年

～福島県の復興に向けた取組をご存じですか～



東日本大震災から15年が経過した今でも、避難指示が継続しお住まいになることが難しい地域があります。UR都市機構では、大熊町、双葉町、浪江町において被災地の復興まちづくり支援を進めています。

駅前などの町の中心となる場所を整備するための支援



大熊町 クマSUNテラス

まちなかの再建に向け、大野駅周辺の基盤整備を支援し、令和7年3月には産業交流施設や商業施設がオープン



双葉町 旧東邦銀行 双葉支店

震災前からの面影を残す建物の利活用に向け、改修計画等の策定、設計・施工を支援しています

コミュニティ再生やにぎわいづくりの支援



浪江町 情報発信・交流スペースなみいえ

イベントカレンダー「なみ☆カレ」を設置し地域へ公開しています

復興に向けて“拠点となる場所×にぎわい”の両面から支援しています

このような経験を踏まえ、お住まいのみなさまが安心して暮らせるまちになるよう普段から、UR賃貸住宅で防災に関するセミナーやワークショップを行っています。

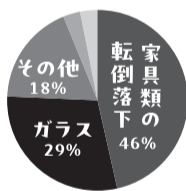
URでは、UR賃貸住宅にお住まいのみなさま向けに「地震・水害に向けたそなえのガイドブック」をHPで公開しております。右記の二次元コードからご確認ください



これからもみなさまが安心して暮らせるまちづくりのため、お住まいの防災性向上や災害時の支援などに取り組んでいきます

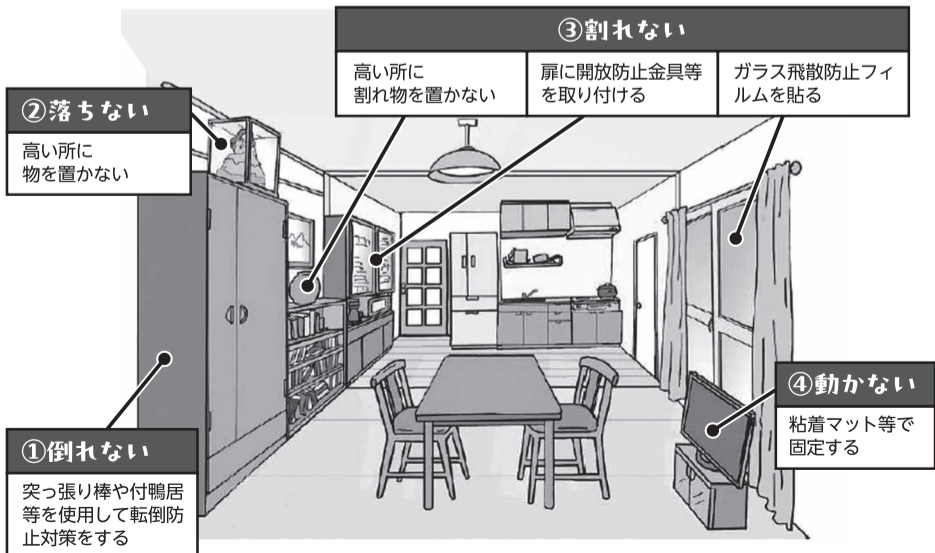
地震への“そなえ”出来ていますか？

実は、地震による怪我の原因の第1位は「家具類の転倒落下」です。安全な家具の配置や、家具転倒防止対策をしっかりと行って、命を守りましょう！



怪我の原因第1位！
出典：日本建築学会「阪神・淡路大震災住宅内部被害調査報告書」内部被害による怪我の原因

室内の危険箇所をチェック！4つの「ない」を目指そう！



家具転倒防止対策器具の種類

「①倒れない」ためには、		「④動かない」ためには、	
L型金具	突っ張り棒(ポール式) ^{※1}	粘着マット式	
ベルト式			
チェーン式	壁等接着式		ストッパー式
壁等金物固定式 ^{※2}			

※1 <ご注意> お住まいの居室が膜天井(伸縮性のあるシート)の場合は、突っ張り棒は使用できません。他器具での対策をお願いします。
 ※2 <ご相談先> 壁や付鴨居にネジなどの金物を利用して家具を固定したい場合、URでは付鴨居補強や金具取付板設置などの工作物設置の模様替え基準を定めております。詳しくは管理サービス事務所または住まいセンター等でお尋ねください。

(参考) UR都市機構「住まいのしおり(災害時の注意)」
https://www.ur-net.go.jp/chintai_portal/sumainoshiori/index.html

